

(2021)

集団 SV 検討事例 1

<p>A さん 年齢： 80 歳 (男) ・ 女 要介護度 要介護 1 (令和 2 年 4 月認定) 障害老人の日常生活自立度 J1 認知症日常生活自立度 IIb</p>
<p>家族構成 長男と都内で二人暮らし。 長男 (50 歳) 派遣社員。地元のメーカー工場に勤務。婚姻歴なし。 妻 (77 歳で他界) 令和 2 年 5 月入浴中に倒れているところを、A さんが発見したが、すぐに亡くなった。 長女 (45 歳)：結婚し、九州に夫、子供 2 人とともに在住。保育士。 兄弟：A さんは 4 人兄弟の第二子。兄と妹 (長女) は他界。妹 (次女：70 歳) は神奈川県で夫と二人暮らし。あまり交流はない。</p>
<p>疾患名：アルツハイマー型認知症、高血圧、座骨神経痛</p>
<p>現在のサービス利用の状況 なし</p>
<p>これまでの経過</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 3 年 1 月、A さんが住む町の自治会の役員から地域包括支援センターに「A さんが心配」と相談があった。 ・隣近所の人のお話では、妻の他界後、A さんを家の外で見かけることはほとんどなくなり、時折、夜中に長男とけんかしている様子なので心配とのことだった。 ・包括職員が A さん宅を訪問したところ、玄関から居間までかなり散らかっており、足の踏み場がない状態であった。A さんの話はあまり要領を得ず、10 分ほど話していると「何しに来たんだ?」「どこから来たんだ?」と繰り返す。15 分ほど話を聞いていると、A さんが不機嫌になってきたため面談を打ち切った。 ・長男在宅時に再度訪問し、長男からきいた内容は以下の通り。 <p>① A さんとは長男が中学生のころから折り合いが悪く、長男は 20 歳の時に実家を出たが、40 歳のときに勤めていた会社が倒産してしまい、以降派遣社員となり親と同居してきた。</p> <p>②長男は、昼から夜中までの勤務、休日はストレス発散のためパチンコやサウナに出かけてしまうことが多いので、A さんが昼間どのように過ごしているのかよくわからない。</p> <p>③坐骨神経痛については、かなり以前から腰が痛いと言って、病院にかかっていたときもあった。今でも腰が痛いと言っている。妻が亡くなる少し前に物忘れがひどくなり、アルツハイマー型認知症、高血圧の診断および要介護 1 の認定を受けた。A さんは 10 分程度前のことは忘れてしまい、込み入った話は理解が難しい。トイレを汚してもそれに気づかない、ごみ捨てを頼んでも忘れる、お風呂のお湯を沸かしたことを忘れてしまうということがあった。</p> <p>④A さんの妻が存命中は、妻が家事全部を行っていた。亡くなった後、長男は、自分の部屋と台所・浴室など自分が使う範囲は片付け・掃除をしており、洗濯も自分の分はしているということであった。しかし、体が元気な父親が、自分が使っている部屋の掃除や自分の洗濯を何もやらないことに長男は怒りがわき、ときどき大喧嘩するという。</p> <p>⑤食事は、長男がコンビニや深夜営業のスーパーで多めに総菜や菓子を買って、冷蔵庫に入れているが、最近は全部食べているときと全く手をつけないときがある。A さんの身体状況は、特に問題ないのではないかと考えているということであった。</p> <p>●長男と今後のことについて話そうとしたが、長男は「自分がやるべきことはするが、全面的に父親の面倒をみることはできない」、「しかし、介護サービス、特に訪問介護は利用したくない」と言い、今後のことについて相談しても「わからない、なるようになる」と埒が開かない状況である。</p>
<p>目標と課題 A さんの生活が安定することが目標であり、長男と調整する必要があるが、聞いてもらえない。</p>

(2021)